様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３１３０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０３０４

研究課題名（和文）世界（再）創造の欲望ー「長い１８世紀」における出版文化と蒐集のポリティクス

研究課題名（英文）Desire for Re-Creating the World -- Politics of Print and Collecting Cultures in the Long Eighteenth Century

研究代表者
箭川　修（Yagawa, Osamu）

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：２０２１０２１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「長い十八世紀」における出版文化・蒐集文化についての研究を、博物誌、政治史、国際関係や植民地支配（ポストコロニアル研究）などの観点から研究した。その結果、出版行為と蒐集行為は相互に密接に関連していることを確認した。具体的には、（１）アンソロジー、カタログ、雑誌などの形態の発展における蒐集文化の影響（２）「驚異の部屋」から博物館への変容、および残存する個人の蒐集行為における出版文化の影響、等である。また、それぞれの文化が同時代の（国際）政治・経済の文脈と結びついていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study examined print culture and culture of collecting in relation to Natural History, Politics, International Relations, and (Post-) Colonialism in the ‘Long Eighteenth Century’. As a result, it was made clear that printing and collecting activities were closely interrelated with each other in that period. Concretely: (1) culture of collecting had much influence on the modern form of anthologies, catalogues and periodicals (2) both transformation of the old ‘cabinet of curiosity’ into the public museum collections and the remaining activities of individual collecting were mainly based on the print culture. We also made it clear that these cultural developments were related to the contemporary political and economical contexts in a global way.

研究分野：英文学

キーワード：蒐集文化　出版文化　政治　経済　植民地主義　見世物　アンソロジー

１．研究開始当初の背景

本研究の背景は以下の通りである。

本研究の第一の重要項目である出版文化研究の分野は、研究代表者である箭川が翻訳者の一人である Christopher Hill の研究がその基盤を作ってきた。一方、近年、資料の電子化などが進められた結果、さまざまな資料が発掘され、Harold Love や J. Raymond などによる研究が存在しており、例えば、後者が編纂した *News Networks in Seventeenth Century Britain and Europe* (2007) では、１７世紀後半のニュースの出版と公共圏形成の問題などが論じられている。日本国内でも小野功生『ミルトンと十七世紀イギリスの言説圏』(2009)など、Hill の研究を踏まえた上で、この時代の出版文化を扱う優れた研究が出されて、この分野の研究は、「長い１８世紀」の文学・文化研究において、現在中心的な課題となっている。

本研究のもう一つの重要項目である蒐集文化研究の分野における草分け的な著作は、R. Altick, *The Shows of London* (1978)であるが、その後、1980-90 年代における、ジェンダー研究、新歴史主義、新博物館学、ポストコロニアル研究、カルチュラル・スタディーズの発展と関係して、蒐集文化に関する研究もその裾野を広げ、方法論も多角化してきている。近年の代表的な研究成果としては、ルネサンス期から１９世紀までの時期、博物館施設だけでなく、個人蒐集家の蒐集などについても網羅的に扱った Arthur MacGregor, *Curiosity and Enlightenment* (2007)が特筆に値する研究である。

以上のように本研究は「長い１８世紀」における重要な課題である２つの文化の従来の研究に基づいた上で、それらの相互関係を考察するものである。

２．研究の目的

本研究は、いわゆる「長い１８世紀」と呼ばれる時期における出版文化と蒐集文化が交錯する状況を、学際的視座から考察することを目的とした。この時期は、出版文化の隆盛にともない、国内外を問わず、あらゆる情報を渉猟・蒐集し、書籍等の印刷の形で世界を再創造しようとする欲望が顕在化した時期でもある。

このような欲望は、例えば、百科全書のプロジェクトであるとか、国内外を網羅した自然誌などに見られるような、広く世界全体の再創造を目指した試みとして現れる場合もあった。一方で、国家、あるいは、地方、都市というように、地域を限定した植物、動物の蒐集、あるいはある階層の社会状況に関する報告など、限定され範囲での世界再創造の試みとして現れる場合もあった。また、このような「現実」の蒐集だけでなく、空想／想像による新世界の創造の試み、あるいは、空想の産物である文学作品の蒐集の試みという形で現れる場合もあった。

上記１で述べたように、このような出版文化と蒐集文化が同時に重要な意味をもつ文化的状況に関しては、それぞれ優れた研究が存在してきたが、従来、出版文化と蒐集文化というそれぞれの文化が個別に扱われる傾向にあった。そこで、本研究は、この二つの文化が交わることでどのような文化的状況が生じたか、相互の文化における生成変化も含め、学際的な観点から検証することを目的とした。

３．研究の方法

本研究は以下のような方法で行った。

（１）資料収集：「長い１８世紀」におけるイギリスの出版・蒐集文化について、一次、二次資料・文献を、ESTC 等のデータ検索サイトを用いて、組織的に調査・収集、分類・整理した。その際、大量の史料を用いた研究の方法（データの蒐集・整理・分析するための方法）などについての大学院生教育もあわせて行った。

（２）理論的整序：出版・蒐集文化に関するさまざまな研究書を検討し、出版・蒐集文化研究のための理論的な基盤を整理した。その際「長い１８世紀」の同時代の理論・考え方だけでなく、ヴァルター・ベンヤミン等によるメディア論・蒐集の理論など、現代批評理論の観点からの整序も行った。

（３）新たな研究基盤の提起：メールでの意見交換、研究会等を開催することで研究者間および他分野の研究者とも意見交換を行い、（１）（２）の成果を検討することで、出版・蒐集文化を同時に考察することによる相乗効果を提起するとともに、時代を「長い１８世紀」以外にも広げた際の研究の展開についても検討を加えた。

（４）総括：　上記（１）～（３）の作業をまとめて全体を総括した。

４．研究成果

本研究は、出版文化そして蒐集文化という２つの文化を射程に収め、文学と文学以外のテクスト等を横断的に検討する作業を行った。成果は大きくは以下の２点になる。

（１）文学、文学以外の出版にまつわるブックセラー（ジェイコブ・トンソン、ジョン・ダントンなど）、すなわち出版する側の人々の戦略を探ることで、テクスト出版を商業的なベースにおいて考察した。それによって、例えば、アンソロジーなどのこの時代の流行

の出版形態において、さまざまな作品／作家を、ある意図／価値観の下に蒐集するという方向性が見られることを確認し、また、蒐集するブックセラーによってそれぞれの政治性などが見られることを確認した。また、同時代のニュースや質問と回答を集めた雑誌／それをまとめた書籍なども検討することで、同時代の知識への欲望とそれを蒐集し、出版することによって情報が拡散し、文化を形成していく状況を確認した。また、時事的な話題を扱ったジャーナリスティックな文書、文学としては「三流以下」とみなされてきた作品も扱うことで、従来の正典中心の研究の成果を修正できた。とりわけ、さまざまな階層（とその欲望）などが蒐集されることで、出版文化に流入・拡散し、文化形成をもたらす過程について確認した。

（２）蒐集文化の分析を通じて、正典的な芸術・文学作品だけではなく、見世物や俗悪な大衆文化、ツーリズムを対象に検討を行った。具体的には、これ以前の時代から存在している「驚異の部屋」の流れにおける、偏愛、玉石混交的な蒐集文化が、「正当」（とされる）蒐集文化に編成され、ハンス・スローンなどを経て、大英博物館へと至る流れを、植民地主義などの観点から確認した。更に、このような分析の際、ナショナリズムの台頭、さらにはイギリス帝国の形成との関係について、国際関係なども視野に入れて、考察を行った。一方で、このような「正当」に回収されなかった蒐集文化が、たとえば、ソーズビーのような田舎の個人蒐集家という形でこの後も残存することを確認し、そこでは、国内外の雑多で珍奇なものが個別に重要視され、全体的な正統に回収不可能な個人的な趣味としての非全体的な志向（個別的嗜好）が存在していることを確認した。また、多くの人による本の蒐集やそのコレクション（の売買）を精査することで、出版・蒐集の美学についても扱い、文化の形成過程を検討した。さらに、この時代の様々な機会における大衆娯楽、見せ物文化等も検討することで、文化全体における蒐集文化の生成・変異について考察を深めた。

以上述べてきたように、本研究は、出版・蒐集文化についての研究を、当該時期の科学史、政治史、国際関係や植民地支配（ポストコロニアル研究）などと関係づけることで、出版行為と蒐集行為と当時の政治・文化状況は密接に関連していることを確認した。出版行為が政治的パンフレットなどを基盤にしたことは従来の研究でも明らかになっていたが、蒐集家の多くが、当時の国内的・国際的政治状況に深く関わった有力者であったことに注目することで、従来の研究では、蒐集行為と、政治的・文化的状況とのつながりが見過ごされてきたのに対して、本研究は、そのような政治的コンテクストも視野にいれ、従来の狭い範囲での出版・蒐集文化研究を見なおすことができた。

また、これに加えて、出版・蒐集文化において、書籍という物質性とその内容という精神性、内容における物質性（ニュース等）と精神性（宗教的要素等）、実物のコレクションという物質性と情報を集める精神性なども考察することで、「長い１８世紀」の文化における、物質性と精神性の両面を同時に扱うことができた。このような研究を行うことで、商業と宗教の関係性など従来あまり注目されてこなかった分野間の関係性を検討できたことも成果である。

まとめ

これまで述べてきたとおり、「長い１８世紀」において、出版文化と蒐集文化は相互に影響を与えつつ発展・変化しつつ、ナショナリズム／植民地主義、エリート文化／大衆文化、高尚な文学／ジャーナリズム／「三流」娯楽テクストなどの形成のひとつの重要な原因となってきた。今後は、現在進行中の各研究者の成果を相互に組み合わせた形で、出版文化と蒐集文化について、より一層考察を深める予定である。具体的には、単なる両文化の出会い、結びつきに留まらない、相互の量的・質的変化に関する相乗効果にも注目する予定である。そのためには、より学際的な視野が必要であり、そのための研究会等も開く予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）

① 吉田直希「『乞食オペラ』における諷刺の階級／ジェンダー的主体の捻れ」*Seijo English Monograhps* 44, 141-167 頁、2015 年。査読無。

② 川田潤「原子論と初期近代英国演劇」『福島大学人間発達文化学類論集　人文科学部門』第 20 号、77-90 頁、2014 年。査読無。

③ 箭川修「〈悲しむ女〉の作り方：テニスンの Mariana と絵画的演出」、『東北学院大学論集（英語英文学）』第 98 号、67-85 頁、2013 年。査読無。

④ Yukari Yoshihara, “Tacky Shakespeare in Japan,” in *Multicultural Shakespeare*, Vol.10, no.25, July 2013, University of Lodz. pp.83-97. DOI: 10.2478/mstap-2013-0007. 査読有。

⑤ 梶 理和子「賭けにはまる放蕩者たち--（アン）フェアなマナーとモラル--」. 『日本ジョンソン協会年報』37 号, 日本ジョンソン協会,

5-10 頁。2013 年。査読無。

〔学会発表〕（計　7　件）

① Yukari Yoshihara, “Strange Adventures of a Man Who Called Himself A Japanese Robinson Crusoe: Oyabe Jenichiro (1868-1941).” Robinson Crusoe in Asia. 2014 年９月 20 日、於：筑波大学。招待講演

② 川田潤「十七世紀の原子論とジェンダー／ポリティクス — マーガレット・キャヴェンディッシュの原子論 —」十七世紀英文学会東北支部　口頭発表　於：東北学院大学 2014 年 8 月 9 日

③ 川田潤・吉原ゆかり・末廣幹・宮本正秀第 86 回日本英文学会 SYMPOSIA 第一部門「初期近代演劇科学的知見 — 円環の断面／断片をスペクタクル化する —」口頭発表於:北海道大学　2014 年 5 月 25 日

④ Riwako Kaji, "Social and Sexual Politeness: Representations of the East in the Eighteenth Century Dramas." 45th ASECS [American Society for Eighteenth-Century Studies] Annual Meeting, March 22, 2014.

⑤ 川田潤・梶理和子「最近の 17 世紀研究の動向と論文の特徴」十七世紀英文学会東北支部　口頭発表　於：東北学院大学 2013 年 7 月 20 日

⑥ 箭川修　第85回日本英文学会SYMPOSIA第一部門「ふぞろいの韻律たち　初期近代英詩における定型の魅惑／逸脱の愉楽」口頭発表、於：東北大学、2013 年 5 月 25 日

⑦ 吉田直希「18 世紀エロティカと快楽の感受性」日本ジョンソン協会シンポジウム『愛と(不)道徳の感受性』口頭発表、於：アルカディア市ヶ谷、2012 年 5 月 28 日

〔図書〕（計　4　件）

① Yukari Yoshihara,““Raw-Savage” Othello: The First Staged Japanese Adaptation of *Othello* (1903) and Japanese Colonialism.” Alexa Huang and Elizabeth Rivlin (eds.), *Shakespeare and the Ethics of Appropriation*. Palgrave. 2014. 総ページ：pp.274. 担当：pp.145-159.　査読有。

② 吉原ゆかり「明治に環太平洋でロビンソンする—田中鶴吉と小谷部全一郎」遠藤不比人編『日本表象の地政学』彩流社、総ページ：249 頁、担当 23-45 頁、2014 年。査読無。

③ 荒木正純「江戸期日本の「森のひと」受容誌」（北山研二編『文化表象のグローカル研究：研究成果中間報告』成城大学グローカル文化研究センター刊、総ページ：219 ページ、2013 年 3 月 29 日、査読無。

④ Yukari Yoshihara, “The First Japanese Adaptation of *Othello* (1903) and Japanese Colonialism.” Bi-Qi Beatrice Lei and Ching-Hsi Perng (eds.), *Shakespeare in Culture*. National Taiwan University, 2012. 総ページ：360 頁、担当：pp. 231-250、査読無。

６．研究組織

(1)研究代表者

箭川　修（YAGAWA, OSAMU）
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：20210213

(2)研究分担者

荒木正純（ARAKI, MASAZUMI）
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号：80015863

川田　潤（KAWATA, JUN）
福島大学・人間発達文化学類・教授
研究者番号：70323186

梶　理和子（KAJI, RIWAKO）
山形保健医療大学・看護学科・准教授
研究者番号：60299790

吉田直希（YOSHIDA, NAOKI）
成城大学・文学部・教授
研究者番号：90261396

吉原ゆかり（YOSHIHARA, YUKARI）
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：70249621